

# 越前ものづくりの里クラフトコンテスト 審査委員のご紹介



株式会社ヒュージ  
代表取締役  
内田 裕規



一般社団法人  
マザー・アーキテクチャ  
代表理事  
遠藤 幹子



一般社団法人  
福井県クリエイター協会  
代表理事  
景山 直恵



株式会社中川政七商店  
商品部ディレクター  
高倉 泰



グリーンラボ  
代表  
友廣 みどり

過去のコンテストの入賞作品と  
審査委員のコメントをご紹介します

# 第1回越前ものづくりの里クラフトコンテスト

## 最優秀賞

長田泉（越前和紙）・吉鶴かのこ（グラフィックデザイン）・中井詩乃（プロダクトデザイン）

「YURAGU」



## 審査委員コメント

和紙の持つ特徴である、軽くて丈夫、  
味わい深い質感が活かされていて好印象。

商品名など世界観も統一されている。

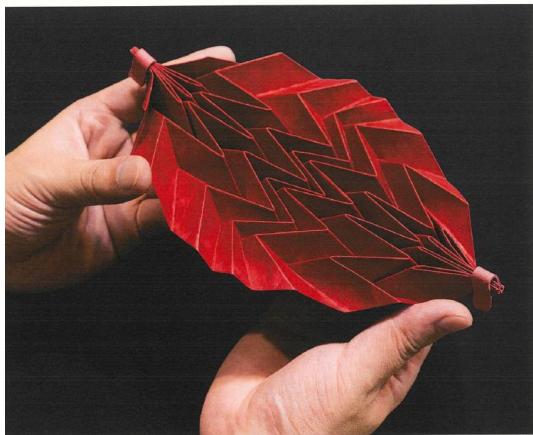
新たなニーズに挑戦している点が評価  
できる。  
こういった活動を単発ではなく、和紙の  
可能性として面で見せていくことができ  
るといい。

# 第1回越前ものづくりの里クラフトコンテスト

## 優秀賞

山口真史（越前和紙）・守田篤史（デザイン）

「折り紙漆器」



## 審査委員コメント

形状を自由に変える和紙や漆の撥水性など特性活かしている。特に折り加工は、紙に厚みを持たせることができ、新規性がある。

デザイナーと職人技のコラボレーションが良い。デザインだけに注目されて終わらぬ、技法的な革新性や工夫をより深く伝えると付加価値がつくと思う。

海外の方へのノベルティやお土産に喜ばれそう。

# 第1回越前ものづくりの里クラフトコンテスト



## 優秀賞

山田奈穂子（越前焼）

「f l o r aシリーズ」のうつわ



## 審査委員コメント

シンプルなデザインで毎日使っても飽きがない魅力がある。

現代的な表現に落とし込まれている。装飾性を控えながらも、味わい深い質感が実現できている。  
輪花と模様も世界観が統一されている。

シンプルで愛らしく、色々揃えたいくなる。購買者は技巧的な珍しさを所有したがるので、いっちんの柄をもっと増やし、シリーズで見せると良い。

# 第1回越前ものづくりの里クラフトコンテスト



## 特別賞

若月寛人（越前箆笥）

T i s s u B o x 「樹跡（きせき）」



## 審査委員コメント

コンセプトが明快で作りも精巧で、完成度が高い。

それぞれの木材を個々のものとして考えるアプローチが魅力的。クラシカルな旅館などに合う。

もっとモダンに洗練されたデザインと木の野性味を合わせたものを見てみたい。

# 第1回越前ものづくりの里クラフトコンテスト



## 特別賞

澤田隆司（越前打刃物）

### 「鉄球」



### 審査委員コメント

コンセプトが非常に明快でアートとしての価値が高く、うまく見せれば伝統技能の奥深さを伝える秀逸な素材にもなりそうで、高く評価する。

一見、販促とは真逆の方向に見えるが、職人の思いや生き様を表現することで根強いファンを獲得できるため、結果的には売上げに繋がる。

素材の荒々しさが伝わってきてとてもよい。もっと大きいほうがオブジェとして存在感が出ていい。

## 第2回越前ものづくりの里クラフトコンテスト

### 最優秀賞

山田奈穂子（越前焼）

「蓋物（ボンボニエール）」



### 審査委員コメント

菓子やアクセサリはもちろん、家族の形見やへその緒などを大切な物をしまっておく入れ物として、インテリアの一部としても素晴らしい演出をする作品。

蓋物という難しそうな展開に挑まれ、それがしっかり形になって完成していることが素晴らしい。

デザイン性が高いが、越前焼らしさをどう伝えるか工夫してみたらどうか。見てみたい。

## 第2回越前ものづくりの里クラフトコンテスト

### 優秀賞

3社合同アップサイクルプロジェクト（やなせ和紙・土直漆器・マルイチセーリング） （越前和紙・越前漆器）

#### 「しおり」



#### 審査委員コメント

今まで別々に生産していたそれぞれの産地の端材を組み合わせた、素晴らしい商品。今はしおりを使う機会も減っているだろうから、コンセプト自体に賛同して購入する人を増やすと良いのでは。

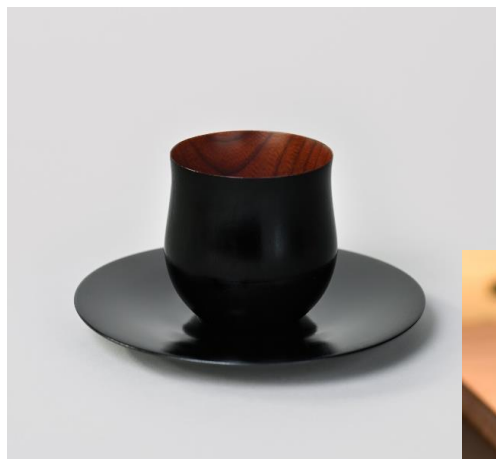
パッケージデザイナーやコピーライターなどと協力して、商品名やブランド名など何かユニークな打ち出し方をぜひ検討して頂きたい。

## 第2回越前ものづくりの里クラフトコンテスト

### 優秀賞

藪下喜行（越前漆器）

「うすくちうるし」



### 審査委員コメント

手に持った時にコンセプトがしっかりと伝わり、秀逸なデザイン。

カップの薄い縁は口当たりが優しく、胸元で手に包むフォルムが心を落ち着かせる。

使い始めは、暖かい飲み物を注ぐと漆の香りが立つので、カップの内側の仕上げを再検討するなど飲み物の香りを重視する人にも使いやすくなる改良を重ねていただくと良い。

## 第2回越前ものづくりの里クラフトコンテスト 最優秀賞

### 特別賞

谷田和音（越前和紙）

「わしまる」



### 審査委員コメント

端材を使用して全く違うものに変えているところが良い。  
海外の小物や雑貨を参考にするとオリジナル性が高まる。売り場を意識して製作されると良い。

廃材を再利用することで環境に優しく、  
手に取った人に癒しとなごみを与える作品。

置き物を日常的に使わない人にとっては、  
なかなか買うハードルが高いため、例えば  
干支の動物や鏡餅や雛人形など、季節の飾り物のシリーズなどを打ち出すといい。